

目的

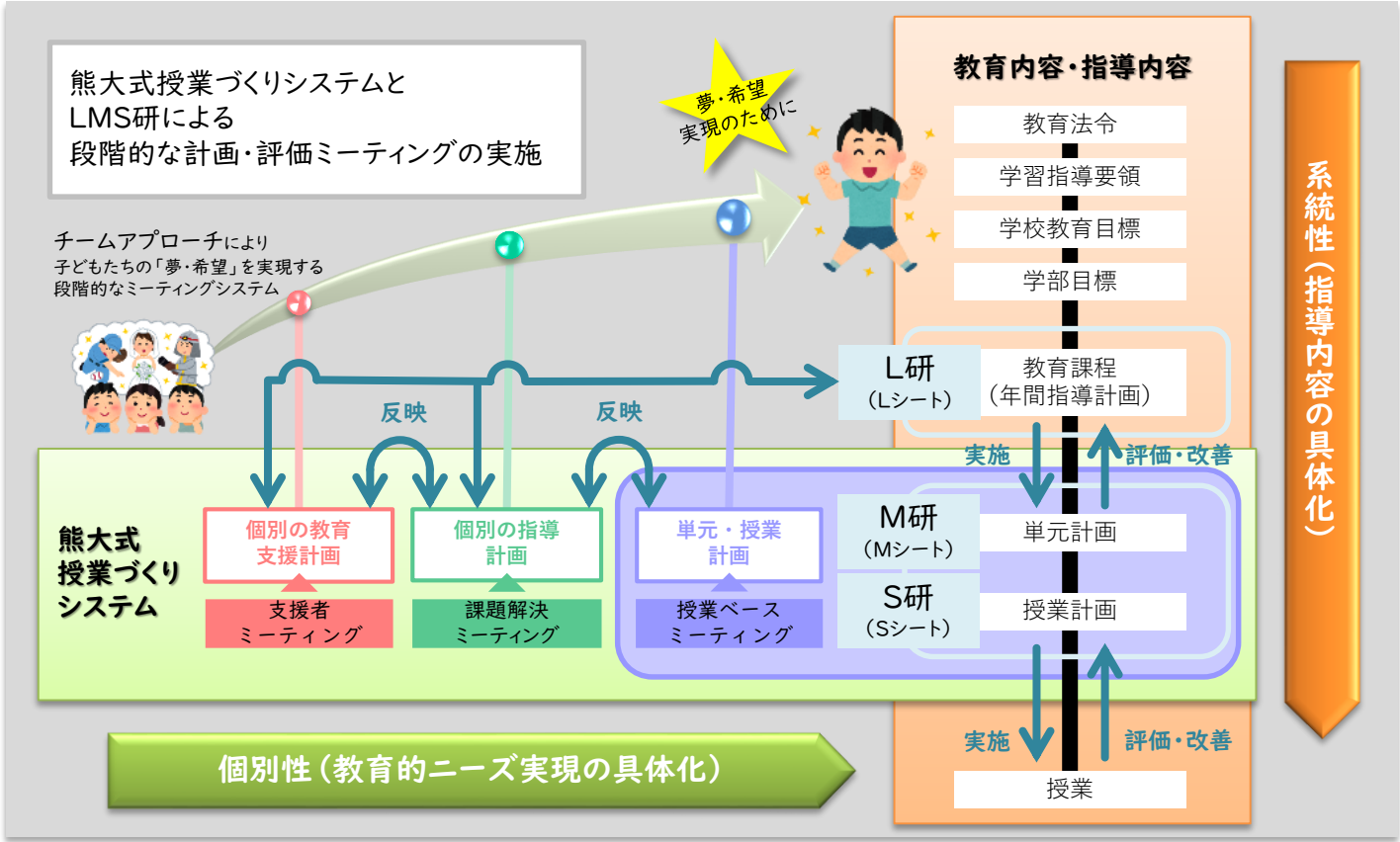
学習と指導の評価・改善を教育課程の評価・改善に生かすシステムを構築し、教育課程の改善を図る

内容・方法

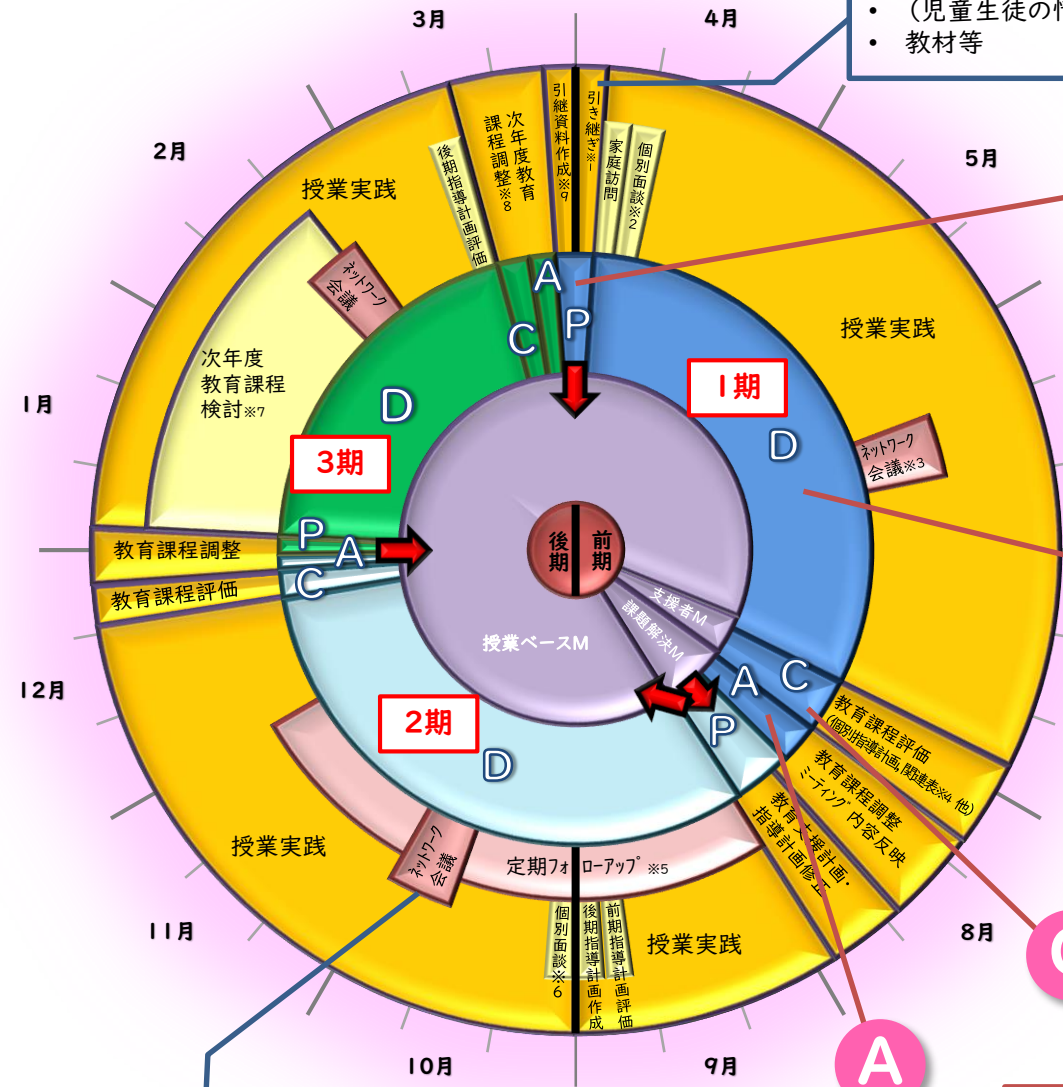
- 熊大式マネジメントシステムの構築 → 熊大式授業づくりシステムをベースに評価もミーティングで実施できる体制づくり
- 評価・改善の確実な実施 → 評価・改善時期の見直し
- 効率的なPDCAサイクルの実現 → 評価改善のプロセス明確化, ツールの活用

成果

ミーティング
(計画・評価)の充実



3期での
PDCAサイクル



- ◇ツールを活用した
児童生徒情報の引継ぎ
- ・ 個別的教育支援計画
 - ・ 個別の指導計画
 - ・ プロフィールシート
 - ・ (児童生徒の情報、実態等)
 - ・ 教材等

◇児童生徒の教育的ニーズを基に年間指導計画を作成

- ・ 「Lシート」を活用して教科横断的視点での配列 (詳細はNo. 2)

教科等関連 (Lシート)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
国語												
算数												
理科												
社会												
外国語												
音楽												
美術												
体育												
保健体育												
総合的な学習の時間												
道徳												
特別活動												
その他												

◇各単元等の実施 (詳細はNo. 2)

- ・ 各単元及び1単位授業のPDCAサイクル
- ・ 「Mシート」「Sシート」を活用した指導計画, 評価 (M研, S研) の実施
- ・ S研での授業の評価を基にした指導改善
- ・ 単元の評価を基にした授業改善

M研 (Mシート) S研 (Sシート)

単元計画 (Mシート) 授業計画 (Sシート)

単元評価 (Mシート) 授業評価 (Sシート)

単元 (P, A, C, D) 授業 (P, A, C, D)

S研 (15分間) で効率的に評価

- ◇地域社会のニーズを
把握し学習活動へ反映
- ・ 附特就職支援ネットワーク会議
 - ・ フォローアップミーティング
 - ・ 企業等アンケート
 - ・ 地域資源の活用, 協働 等の実施

- ◇教育課程の改善
- ・ 教育課程の実施状況の評価を基に以降の指導内容の見直し, 修正
 - ・ 単元等の課題を基に改善案 (具体的解決策) を他単元計画及び次年度単元計画へ反映
 - ・ 日程, 施設利用などの学部間調整

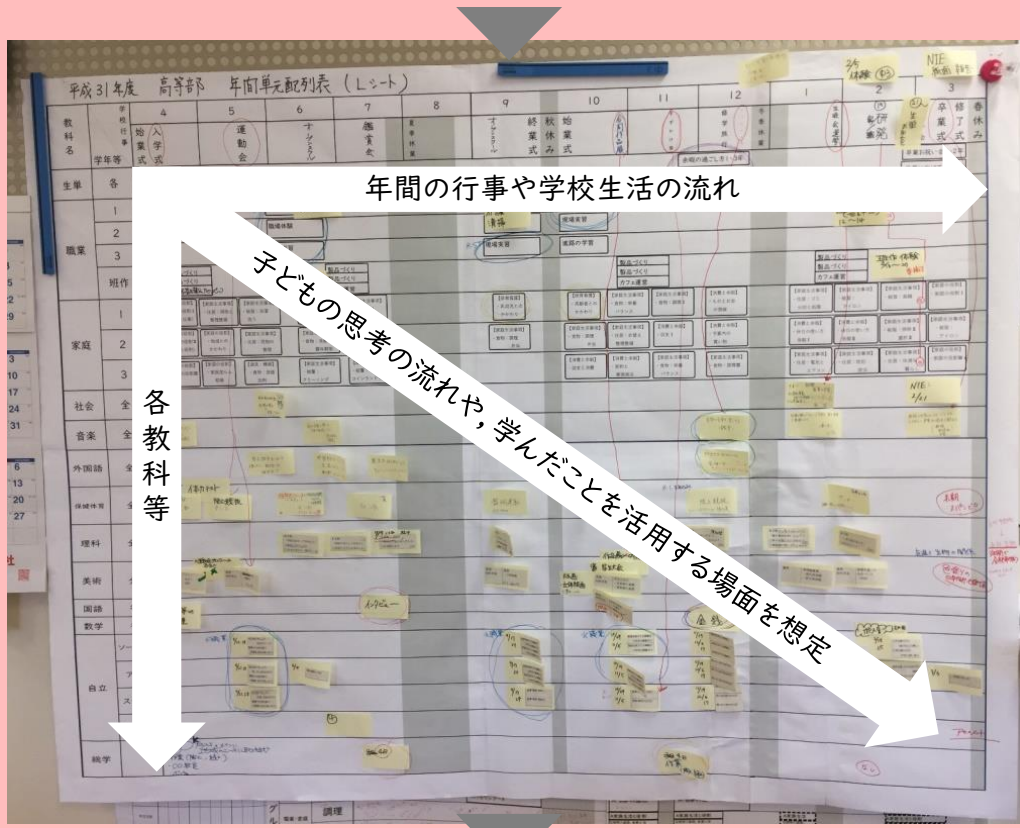
- ◇教育課程の評価
- ・ 教育課程の実施状況の評価
→ 「教科との関連表※」を活用した指導内容取扱いの評価
※年間計画と各教科の指導内容との関連を示した表。該当項目に印を入れることで関連を可視化したもの。評価の際には、実際の授業で指導内容の取扱いが十分に行えたかを評価する。
 - ・ 学習の達成状況に関する評価
→ 各単元の学習評価と単元評価の集計
→ 「Lシート」を活用した教科関連の評価
 - ・ 運営に関する体制等の評価

L・M・Sシートの活用

「単元や題材などの内容や時間のまとまり」を意識した「授業改善」
L (Long)・M (Middle)・S (Short) の3つの段階を設定し、各段階でのシートを効率的・効果的に活用

Lシート（年間単元配列表）活用の流れ

各教科等の学習内容が網羅されているか、教育課程表を確認後、
Lシートで各単元の配列を行う



Lシートで単元を配列後、各教科等の年間指導計画の変更・調整を行う

Lシート活用のポイント

- ◆ 児童生徒の実態・学習経験を配慮すること
- ◆ 前年度のLシートの評価を基にすること
- ◆ どのような資質・能力を育むかの視点を持つこと
- ◆ 教科等横断的な視点を持つこと
- ◆ 弾力的な運用ができる柔軟な計画になっていること
- ◆ 修正や追加、評価、改善等を直接記入すること
- ◆ 地域資源の有効な利活用の視点を持つこと

Mシート（単元・題材構想シート）活用の流れ

Mシート				
学部 期間	学年・グループ	領域・教科等名	単位時間数	記入者
単元名				
学習指導要領段階	学習指導要領や各計画、教育的ニーズ等を踏まえ、本単元のねらいや学習内容を整理する			
学習概要				
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	単元目標の検討 (育成を目指す資質・能力の3観点、教育的ニーズを踏まえる)			
学習計画(教育的ニーズ、育成したい資質・能力等を踏まえて)	ねらいと評価計画			
期日	主な学習計画		知・技	思・判・表 主体的
学習の系統性や、生活への般化、他教科等の関連等を踏まえ、目標達成に必要な学習活動や教材・教具、学習の流れ、支援方法などについて検討				
個別の目標(評価基準 ◎:十分に達成できた ○:概〇達成できた △:〇に満たない)				
学年	児童生徒名	知	思	判・表
	仮名			
	知			
	思			
	主			
	知			
	思			
	主			
	知			
	思			
	主			
単元(題材)評価(◎:十分である △:検討が必要)				
期日	時数	内容	教材	学習グループ
単元終了後に単元評価を行う(M研)				

Mシート活用のポイント

- ◆ 前年度または前単元の単元評価を生かすこと
- ◆ 単元時数によっては、Sシートを活用し、弾力的に運用すること
- ◆ 計画・評価ミーティングの実施時期を決めておくこと
- ◆ 単元後の評価と個別の指導計画の評価を共有すること

Sシート（授業構想シート）活用の流れ

Sシート				
日時	単元・題材	教科等	MT	
本時のねらいの焦点化				
各教科の見方・考え方を添付				
学習展開				
授業づくりのポイント				
授業後の評価				
S研の評価項目を添付				

S研(放課後15分間、1日1授業)

S授業研のポイント

- ◆ 月行事計画にS研の対象授業を入れておくこと
- ◆ 授業改善の視点を重視すること
- ◆ 15分以内を原則とすること

Sシート活用のポイント

- ◆ 授業評価項目や各教科の見方・考え方を添付し、それらを参考として授業を構想すること
- ◆ 授業づくりのポイントに沿って手立てを講じること
- ◆ 授業後の評価はS研時に手書きで記入してファイリングすること(時間短縮)
- ◆ 評価を積み重ねていき、個別の指導計画の評価へとつなげること

評価・改善の観点整理

課題・志向

- 学習指導要領の内容を各教員がより理解する必要性→指導内容確認表の活用
- ツールの数が増え、作成に費やす時間の増加→ツールの精選や内容の見直し
- 教育課程検討時の評価の観点及び資料(評価材料)のさらなる精選
- 個別の指導計画の目標と単元等の目標の関連→個別の指導計画様式の見直しの必要性

個別の指導計画の目標と各単元等の目標の関連を明確にすることで、一人一人の教育的ニーズを反映した教育課程の改善を目指す

